

編集後記

本年度も例年と変わることなく、哲学若手研究者フォーラム論文誌『哲学の探求』を皆様にお届けすることが出来ました。何よりもまずは、小手川先生、田中先生を始めとする執筆者の皆様、並びに編集に協力していただきました校正協力者の皆様、本フォーラムをつつがなく運営していただいている運営委員の皆様、そして本年度の編集を共に行なってくださいました澤崎さんには心より御礼申し上げます。本誌の成立過程を通じて、研究という営みが、多くの人々の尽力によって成り立っていることをまた改めて痛感しております。

誰もがいつもとは異なる状況に置かれている中、本誌がこのように読者の方の目に触れているというのは、決して誇張ではなく哲学という集団的な営為がそれでも進んでいるということの重要な証であると私は考えております。どうかこの論文誌が私と本誌に携わった全ての皆様にとって、誇れるものであることを切に願うばかりです。

早いもので私が哲学若手研究者フォーラムの運営に携わるのも本年度で最後となりました。未だ、他の運営委員の皆様の足下にも及ばない未熟者ですが、私の精一杯の努力が少しでも本フォーラムのお役に立てているのなら幸いです。これからは一発表者としてフォーラムに寄与していこうと思います。何卒、今後ともよろしく願います。

最後にはなりますが、原稿の執筆を引き受けていただきました小手川先生、田中先生、原稿をお寄せいただいた論文投稿者の皆様、お忙しい中で適切な校正を行なってくださった編集協力者の皆様、編集担当が作業に集中出来るようにフォーラム運営を円滑に進めていただいた運営委員の皆様、編集作業を一緒に進めた澤崎さん、そして、本誌を目にしておられる読者の皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

『哲学の探求』編集担当 池田 信虎

本年度は編集作業が極めて順調に進行したため、新型コロナウイルスの影響下にあったにもかかわらず、例年よりも早い時期に『哲学の探求』を発刊することができました。これが実現したのは、本年度のテーマレクチャーであった田中先生と小手川先生をはじめとする12名の執筆者、ならびに編集作業にご協力くださった編集協力者の皆様のおかげにほかなりません。また、本年度からの方針に従って、編集協力者の皆様には投稿された論文の校正だけでなく、内容へのコメントも依頼させていただきました。その結果、編集協力者の皆様には例年以上の負担を強いることになってしまいましたが、これが各執筆者の思考の手助けとなったことは疑いようもありません。この場を借りて、執筆者および編集協力者の皆様に心より感謝申し上げます。

編集にあたっては、本年度のもう一人の編集者である池田氏にも大変お世話になりました。私が雑誌の編集作業に戸惑っている中、氏は編集作業のスケジュール管理や担当論文の振り分け等を率先して行ってくれました。また、私事で雑誌の編集に時間が割けなかったときには私の分まで編集作業を担当してくださいました。いずれの点についても、氏には感謝してもしきれません。氏なしでは、本誌が発刊までこぎつけられなかったであろうことは言うまでもありません。

最後に、論文執筆者の皆様、編集協力者の皆様、本誌および哲学若手研究者フォーラムを支えてくださった全ての皆様に改めて、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

『哲学の探求』編集担当 澤崎 高広